

序章

1) 自己点検・評価の目的と制度

本学の教育理念・目的は、①基盤としての学校法人青山学院の全設置学校に共通な「青山学院教育方針」、②大学として全学部・研究科に共通に設定する「青山学院大学の理念」、および③9 学部 23 学科・12 研究科 25 専攻が個々に設定する「教育研究上の目的」の三層で構成されている。①はキリスト教信仰を機軸として一人ひとりが追求すべき主体的な生という理念を、②はその実現を図るための大学としての課題を、そして③は専門領域ごとに追求すべき教育研究上の理念・目的を表示するもので、それらを通して包括的な方向性とそれを具現すべき構成員(教職員・学生・卒業生)ならびに教育研究組織の個人的・個別的な理念を示している。

したがって、本学における自己点検・評価は、基本的にこれらの理念・目的、教育目標に照らして現状を確認して検証し評価することを目的としているが、2011(平成 23)年以降は、これに、財団法人大学基準協会(2007 年当時。以下「大学基準協会」)における評価システムの改革に伴って、内部質保証を継続的に担保するための組織的基盤の検証を加えた。

自己点検・評価の実施体制については、同制度発足時の 1993 年に関係規則を整備(『青山学院大学学則』と『青山学院大学大学院学則』の一部改正、「青山学院大学自己点検・評価規則」と「青山学院大学自己点検・評価委員会規則」の制定)し、専門委員会として全学自己点検・評価委員会とその下部組織である部局等自己点検・評価委員会を組織した。委員会が行うべき自己点検・評価の内容、実施周期、結果の公表、結果の活用等については「自己点検・評価規則」とその別表に規定し、部局レベル、全学レベルそれぞれの問題点を自己点検・評価活動を通じて横断的に点検・改善する体制を整えている。

2) これまでの経緯と指摘事項への対応

自己点検・評価活動は 1994 年度から第 1 次の活動が始まり、規則に則り 3 年を 1 サイクルとして毎年行い、その結果を報告書として作成、外部に公表している。その取り組みのなかで、2003 年度から開始した全学統一方法による「授業改善のための学生アンケート」の実施や、2010 年度から開始した外部の専門機関による「学生意識調査」では 4 年間にわたって個別学生の評価および成果の変化を追跡するなど、継続的に高い大学教育の質を提供するための施策を行っている。現在は第 6 次活動として第 5 次活動によって明らかになった改善点や、新たな取り組みについて引き続き着実に自己点検・評価活動を行い、改善・改革に努めているところである。これらの結果は「青山学院大学の現状と課題(自己点検・評価報告書)」「大学基礎データ」等として大学ウェブサイト内に専用ページを設け、また、そこに専門職大学院が各専門分野の認証評価機関で受けた認証評価の内容も加え、分かりやすく、体系的に公表している。これにより、在学生や保護者、受験生をはじめとする本学に関心をもつ多くのステークホルダーへの説明責任を果たしている。

なお本学は、2007 年度に大学基準協会に対して認証評価を申請し、適合の認定を受けたものの、17 項目の助言と 2 項目の勧告を受けた。これらについては、全学自己点検・評価委員会が該当部局へ伝達し、部局等自己点検・評価委員会を通して個別の指摘への対応を協議、各部局において改善を図った。2011 年度には、「改善報告書」を大学基準協会へ提出

序 章

し、その検討結果として、さらに指摘のあった事項についても継続して真摯に改善に取り組んでいる。

3) 2013 年度自己点検・評価報告書作成について

本報告書は、2010 年度第 1 回全学自己点検・評価委員会において、大学基準協会への認証評価申請を 2014 年度に行うことを決定したことを受けて作成計画を立て、2012 年 11 月に作成作業に着手した。作成にあたっては、全学自己点検・評価委員と各部局の関係者（委員ならびに執筆担当者）を一堂に集めて執筆説明会を開催し、説明においては第 2 期で実施されることとなった認証評価システムの理解を図るなど、報告書の内容が新たな評価システムの趣旨に沿うものとなることを期して準備を行ってきた。

今回の一連の自己点検・評価を契機に、本学教職員一人ひとりの自己点検・評価に対する認識を高め、教育の質のさらなる向上を現実的かつ継続的に進めて、これからの時代・社会の要請に応えることができる高等教育研究機関を目指していく所存である。

2014 年 3 月

青山学院大学

全学自己点検・評価委員会委員長
副学長 長谷川 信